

第2回風景デザインサロン●開催レポート

第2回風景デザインサロンの実施状況

去る平成19年10月26日(金)に、福岡市薬院にて、第2回風景デザインサロンを開催しました。

- 講師：徳永 哲氏(株)ST環境設計研究所取締役社長)
- テーマ：景観デザインやまちづくりに関わる仕事
- 開催時間・場所：18:30~21:00 / I CONE (福岡市薬院)
- 参加人数：19名

第2回目のサロンでは、徳永氏の貴重な経験の数々を紹介いただき、参加者はお酒や食事もおぼろげに覚えているほど、手を止めて聞き入っていました。質疑応答では、参加者から活発な質問があり、第1回目と同様にアツという間に時間が過ぎていきました。

講演では、徳永氏の豊富な業務経歴や様々な体験の紹介に始まり、「子守唄の里 五木の村づくり」、「世界遺産のグスクをとりまく中城の村づくり」、「黒川温泉の風景づくり」など、徳永氏が深く関わってきた業務について、裏話も交えながら、住民との関わり方などについて、実例を交えたわかりやすいレクチャーをしていただきました。

講演内容の骨子

1. 講演の趣旨について

景観計画・景観デザインに携わって20数年、九州各地の地域づくりに関わり、現場を飛び回ってきたが、それぞれの現場では常に状況が変化し、様々な問題が生じている。その解決のためには、何を考え、どんな役割を果たすべきなのか、これまで関わってきた事例を挙げ、皆さんと一緒に考えていきたい。

2. 子守唄の里 五木の村づくり

- 1) 同じ場所で同じ人が見る景観も、見え方、感じ方は異なるものであり、これが景観の面白さと難しさである。
- 2) 五木の村づくりに長く関わってきたことで、本当に望まれているものは関わっていないとわからないものであることがわかった。
- 3) 景観やまちづくりへの取り組みは意識レベルのモチベーションを保つ必要があり、子どもたちに意識付けをすれば親の世代にも作用する。
- 4) ランドスケープの分野は様々な分野の間にある隙間のような存在であるが、他分野のことで遠慮せず発言・提案することが成功につながった。

3. 世界遺産のグスクをとりまく中城の村づくり

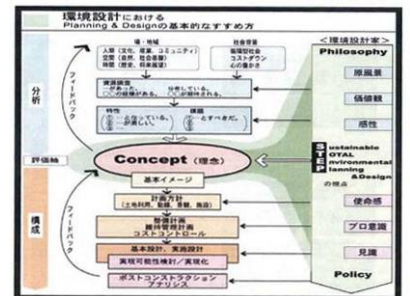
- 1) 世界遺産となった中城城跡をはじめ多くの文化財や豊かな自然環境が息づいている中城村は、村民と行政の協力による村づくりの展開を重視しており、策定の段階から住民参加による村づくりの契機となる各種取り組みを行なっている。
- 2) 意識付けは子どもからという五木村の教訓から、まず、子どもたちに村づくりレクチャーをしていろいろな村の話聞かせ、夏休み明けにレポートを提出してもらい、これを大人のワークショップに材料として利用することで、今後の村づくりを考えることとした。

4. 黒川温泉の風景づくり(グッドデザイン賞受賞)

- 1) 黒川温泉では、以前から即効性のある緑化を心掛けており、支柱を用いず、また規格の整った造園樹木を避け、あえて近隣の不ぞろいの樹木を移植することで、あたかも以前からあった雑木林のように工夫している。
- 2) 案内サインやバス停、車止めなど、見映えだけでなく、使い勝手の面からも「やさしさ」や「ぬくもり」が感じられるように工夫と改良を重ねている。
- 3) 20年前に設置され、維持管理経費がかかっていた照明灯については、本年度からシンプルなものに取り替えることとし、デザインとコストの両方に配慮したものとした。



第2回風景デザインサロンの開催です



徳永氏の仕事の基本的な進め方



頭地代替地周辺の模型



熱心にご説明いただきました

質疑応答

徳永氏の熱心なご講演の後、質疑応答の時間を設けて意見交換をしました。風景デザイン研究会の会員メンバーをはじめ学生さんなどから、時間が足りなくなるほどの多くの質問や感想をいただきました。主な質疑応答は以下のとおりです。

- 1) (質問) 意見が十人十色で収集がつかないと思うが、それをどうやってひとつにまとめているのか? ノウハウなどあれば教えて欲しい。
(回答) あまり強引にまとめようとしなくていいことを心掛けている。例えば、10%でも互いの共通部分があれば、それがわかるように示してあげたり、お互いに見えるように誘導したりするなどして進めてきた。
- 2) (質問) 風景デザインの仕事では、対象物をきめて保全や復元をすることが多いと思うが、何に留意してその対象を抽出しているのか? また、棚田の保全は政治的な農業の大規模化と逆行した動きであるが、これをどうやって調整しようとしているのか?
(回答) 保全や復元すべきものの抽出は、学術的なことはあまり考えずに、単純にその土地に興味を持つ人間として、外部の人間として感じたことを地域の人々に言ってみている。棚田の保全については、保全の意識が少しでもあればそれをサポートすることで意識を向上させ保全につなげていこうとしている。
- 3) (質問) 外国を数多く訪問してこられたと思うが、外国と日本を比べて、景観的にみた日本の良いところと悪いところは?
(回答) 外国では観光地でもない名所のないような村でも地元で誇りを持っている。日本にもそういう感覚も持つ地域もあるが非常に少なく、大部分が経済優先で外部に向けてアピールするような景観づくりをしている。
- 4) (質問) 小さな地域でまちづくりを支援する場合、予算が少ない中でコンサルタントとして様々なサポートしていく必要があるが、その厳しい条件のなかで、一企業の技術者としてどうやってかかわっていけば良いか?
(回答) 予算のあるなしに関わらず、来年はこうしたら良いとか、2~3年先までを考えてより良いものを提案してきた。
- 5) (質問) 風景の経年変化をどう予測するか?
(回答) 明確な予測は無理だが、樹木の成長などの感覚はわかるし、構造物の色合いの変化などは大体予測できるものもある。
- 6) (質問) 地方部の話が多かったが、中心市街地等都市部でのまちづくりの事例は?
(回答) 最近では博多区の山笠が通る街路などの活性化に関わったが、これまでのようなハード整備を主体に実施する流れとは逆に、最近ではイベントなどのソフト的なものからハードに結びつけるような取り組みを実施しており、これが比較的うまくいくことがわかった。
- 7) (質問) 風景デザイン研究会の目的のひとつとして、風景デザインの業務を確立することが挙げられるが、業務として続けていく場合に、留意することは?
(回答) 地域の人々や住民の方を味方につけることと、地域を良くしたいという積極性と、興味を持って取り組むことが大事。
- 8) (質問) いろんな場所を旅することによって価値観や興味の変化があったと思うが、行き先はどういう選択をしているのか?
(回答) どこに行こうとか決めてはおらず、行って見たいなという単純な感覚で旅をしている。
- 9) (質問) 立場的に業務においてはマネジメントが中心となると思うが、積極的に自分で手を動かし現場に入るなど活躍されている。どうすればそんなにモチベーションの維持ができるのか?
(回答) 基本的にデザインが好きだからプレッシャーに感じることは少ない。デザインをやりたいから、それをやるためにマネジメントなど調整的なことも必要となるのでやっているという感覚はある。
- 10) (質問) 行政の立場で地元住民と仕事をする上で留意することは?
(回答) 住民を必要以上に恐れて、譲歩しないこと。普通に人と人との関係を持って、落ち着いて見ておくだけで良いと思う。
- 11) (質問) 地域差、時間差で人の考えは共通しているのか?
(回答) 地域によって違うこともあると思うが、地方と都市では匿名性が高いか低いかで意見が異なってきていると思う。

次回の予定

次回サロンの予定は、次のとおりです。皆さん奮ってご参加下さい。

- 講師 : 川口芳人氏 (国土交通省九州地方整備局企画部)
- テーマ : 景観カルテの運用状況
- 開催日時 : 平成 19 年 11 月 30 日 (金) 18:30 から 2 時間程度
- 開催場所 : I CONE (福岡市薬院一丁目) 予定



参加者も熱心に聞き入っていました